

洋上風力発電に係る理解促進セミナー（質問回答書）

開催日：令和3年(2021年)11月27日（土）

質問者	質問内容	回答者	回答内容
北海道新聞 参加者 （個人参加）	北海道はポテンシャルが高く、国内でも最適地と言われているが、有望区域や促進区域に指定された海域がない。さらに他の地域より5年遅れているというのは、具体的にどのような点で遅れているのか。	（株）北拓 吉田副社長	<p>一番の問題は系統の問題である。マスタープランが実現され、北海道から直流送電で本州に送ることができれば、ポテンシャルを吸収できる。</p> <p>促進区域に指定されるには系統の確保が条件になっており、ここが1番重要なポイントになる。</p> <p>当社は、2016年の北九州の港湾エリアでの風力発電の公募に、電力会社2社、電工会社、地元のガス会社と共に事業者としてエントリーした。</p> <p>洋上風力発電のメンテナンスが陸上風力発電とどれくらい違うか経験することが必要だった。</p> <p>事業者として経験することで、確実にメンテナンス受注できる立場になった。洋上風力を進めるにはどういう道筋が必要か、産業界、地元と話しながら進めてきた。</p> <p>「北海道での事業はまだ先」とは思わずに、早く準備をして、ステークホルダーと対話し、系統整備については国にプッシュしていく必要がある。</p>
パシフィックコンサルタンツ 雨嶋（司会）	台湾では既に事業が進んでいるが、どのような問題があったか。	（株）JERA 中島氏	<p>電力系統についてはどこも同じように問題を抱えている。</p> <p>ただ、台湾は本土が陸続きで、フォルモサ1は需要地である台北と近かったため順調に接続できた。</p> <p>しかし今後規模が大きくなるにつれて系統が課題になり、陸上の送電線の増強が必要である。</p> <p>系統以外の課題は特になかったが、環境の保護、特にシロイルカの保護に力を入れた。また、ステークホルダーの尊重、共存共栄は場所に関わらず、共通の課題だと思う。</p>
web参加者	FITで20年間、買い取り価格が担保されている。長期間事業を続けるリスクをどのように考えて行けばよいか。	（株）北拓 吉田副社長	<p>今年度からFIT制度とFIP制度が選択できるが、将来的にはFIT制度からFIP制度に移行する。</p> <p>FIP制度は、調整部分を自ら調整、またはbalancingグループで調整して、全量を買ってもらうのではなく、高い時に売り、足りない時に調整するなど、バランスを取る制度である。</p> <p>FIP制度でも総合的にはFIT価格と変わらないと言われている。</p> <p>FIT制度を採用している場合、補助金でグリーン電力のコストを補っているため、電力事業者はカーボンオフセットができない。</p> <p>FIT制度を採用しない場合、または20年間のFIT終了後はグリーン電力の権利は事業者に帰属するため、カーボンオフセットができる。今後、FIT制度に頼らない電源として活用されることが期待される。</p> <p>洋上風力が日本の主産業になりつつある証拠として、電力会社やガス会社が本格的に参入してきている。フェーズが変わっている。</p>